
特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本

2015年通常総会

議案書

1. 日 時 2015年6月27日（土）14：00～17：00
2. 場 所 巣鴨地域文化創造館（中山道待夢）地下1階
多目的ホール
東京都豊島区巣鴨4-15-11
3. 議 題
 - (1) 2014年度 事業報告
 - (2) 2014年度 収支決算
 - (3) 2015年度 事業計画
 - (4) 2015年度 収支予算
 - (5) 定款変更（理事定数）
 - (6) 理事の選任

※総会議事の終了後に、「ラムサール COP12 報告」と
「各地からの報告」を行います。

※総会にご出席の際は本議案書をお持ちください。



NPO法人 ラムサール・ネットワーク日本

〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F
TEL/FAX 03-3834-6566 Eメール info@ramnet-j.org

2014年度 事業報告

(2014年4月1日から2015年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

1 会員数の状況 (2015年3月31日現在、カッコ内は前年度)

一般正会員 (1口5千円)	102	(108)
団体正会員 (1口1万円)	17	(20)
特別正会員 (5万円以上)	5	(4)
一般賛助会員 (1口2千円)	95	(85)
団体賛助会員 (1口1万円)	1	(1)
特別賛助会員 (3万円以上)	2	(3)
企業賛助会員 (1口10万円)	1	(1)

2 会議の開催の状況

2014年

4月29日	理事会 (東京・雑司が谷地域文化創造館 第2会議室)
6月22日	理事会 (東京・雑司が谷地域文化創造館 第2会議室)
6月22日	総会 (同上)

3 事業の実施の状況

(1) 調査研究事業

2014年

6月4～8月12日	極東シベリア繁殖地調査に富田が参加
10月12～16日	EAAFPヘラシギタスクフォース会議に柏木が参加 (中国江蘇省黄海沿岸)
10月18日	モニタリングサイト1000交流会 (鹿島市) に柏木が参加

2015年

1月14日	第1回ヘラシギサポートグループ立ち上げ会合 (市川市行徳) 開催
1月16～22日	EAAFP (東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ) 第8回パートナー会議 (釧路市) に柏木と呉地が参加
1月18日	第2回ヘラシギサポートグループ立ち上げ会合 (釧路) 開催

(2) 保全・再生事業

2014年

4月30日	第36回水田決議円卓会議準備会開催
5月22日	賛同団体として「辺野古新基地及び高江ヘリパッドの建設に強く抗議し計画の撤回を求める環境団体の声明と要請～軍事基地ではなく世界自然遺産への登録を～」を公表
5月22日	院内集会「日本列島の生物多様性をチェックする」開催
6月4日	第37回水田決議円卓会議準備会開催
7月7日	第38回水田決議円卓会議準備会開催
9月10日	第39回水田決議円卓会議準備会開催
9月21日～24日	韓国4大河川事業 日韓市民視察団2014
10月9日	韓国・ピョンチャンでのCBD-COP12でサイドイベント「沖縄島と済州島での軍事基地建設による島の生物多様性の脅威」を共催、カンジョン・高江・辺野古住民共同宣言文「軍事基地建設によって島の生物多様性が脅威を受けて

いる！」を採択

- 10月22日 第40回水田決議円卓会議準備会開催
 - 10月30日 第20回日韓国際環境賞表彰式（韓国・ソウル）日本側はRNJが受賞
 - 11月24日 シンポジウム 震災復興と環境保護 ～福島県松川浦の事例から～
 - 11月25日 日本政府に対する共同声明「ラムサール条約にもとづく辺野古・大浦湾沿岸域の保全について」を発表
 - 12月5～7日 第3回生物の多様性を育む農業国際会議2014（大崎市、RNJは実行委員会委員）
 - 12月15日 第41回水田決議円卓会議準備会開催
- 2015年
- 2月28～3月1日 第10回日韓湿地NGOフォーラム（韓国・ソチョン郡）
 - 3月5日 第42回水田決議円卓会議準備会開催
 - 3月25日 辺野古新基地建設に反対するNGO緊急共同声明「いのちの海とサンゴ礁を守れ」に賛同

(3) 普及・啓発事業

2014年

- 5月24日 東京 TALK & LIVE TOWARDS CBD/COP12 (TOKYO FAMILY RESTAURANT) を開催
- 5月25日 TALK & LIVE TOWARDS CBD/COP12 (in Osaka) を開催
- 11月16日 子ども向けワークショップ「大崎ゲートシティの田んぼを生きものでいっぱいにしてよう」(大崎ゲートシティ) を開催
- 12月11～13日 エコプロダクツ展2014「生物多様性ナレッジスクエア」(東京ビッグサイト) に出展
- 12月17日 報告会「CBD/COP12における日韓NGO連携活動」を国連生物多様性の10年市民ネットワークと共催

(4) 国際協力事業

2014年

- 4月30日 WWN スカイプ会議
- 5月28日 WWN スカイプ会議
- 6月18日 WWN スカイプ会議
- 7月16日 WWN スカイプ会議
- 8月20日 WWN スカイプ会議
- 9月21日～24日 韓国4大河川事業 日韓市民視察団2014
- 10月9日 韓国・ピョンチャンでのCBD-COP12でサイドイベント「沖縄島と済州島での軍事基地建設による島の生物多様性の脅威」を共催、カンジョン・高江・辺野古住民共同宣言文「軍事基地建設によって島の生物多様性が脅威を受けている！」を採択
- 10月9日 WWN スカイプ会議
- 10月29日 WWN スカイプ会議
- 10月30日 第20回日韓国際環境賞表彰式（韓国・ソウル）日本側はRNJが受賞
- 12月10日 WWN スカイプ会議

2015年

- 1月14日 WWN スカイプ会議
- 2月10日 WWN スカイプ会議

2月28～3月1日 第10回日韓湿地NGOフォーラム（韓国・ソチョン郡）
3月12日 WWN スカイプ会議

(5) ネットワーク推進事業

2014年

5月1日 ラムネットJニュースレター第16号発行
8月20日 ラムネットJニュースレター第17号発行
9月10日 たんぼ10年だより第1号発行
12月15日 ラムネットJニュースレター第18号発行

2015年

2月20日 たんぼ10年だより第2号発行
3月31日 ラムネットJニュースレター第19号発行

4 助成金・受託事業の状況

(1) 公益財団法人自然保護助成基金

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成助成金（CBD/COP12関係）

2014年～2015年9月 1,500,000円

(2) 株式会社シーエフピー（パタゴニア大崎店）

子供向けワークショップ受託事業

2014年11～12月 55,768円

(3) 日本国際湿地保全連合

世界湿地の日2015日本語版作成受託事業

2015年1月～3月 150,000円

2014年度事業報告（プロジェクト別）

(1) 調査研究事業

●シギ・チドリ類／ヘラシギ

ロシア極東シベリア繁殖地調査に参加（富田宏氏、6/4～8/12）。国際鳥学会でポスター発表。EAAFPヘラシギタスクフォース会議に参加（中国江蘇省黄海沿岸、10/12～6）。ヘラシギサポートグループ立ち上げ会合（行徳、釧路1/14、18）を開催。第8回EAAFPパートナー会議（釧路、1/16～22）に参加。シギ・チドリ類／ヘラシギサポートグループ準備。

(2) 保全/再生事業

●沖縄の生物多様性保全

71団体連名の環境団体声明（辺野古・高江）を院内集会で発表、首相等に送付（5/22）。CBD/COP12でサイドイベント（辺野古・高江・カンジョン村）を開催、日韓共同声明発表し記者会見（10/9）。泡瀬第2次訴訟集会に参加支援（2/15）。辺野古・高江の座り込み抗議行動はじめ集会等に参加支援（計7回）。

●田んぼ 10 年プロジェクト

田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクトは、2013 年 2 月にキックオフを行って以来 3 年目に入り、2014 年度末には 90 を越える団体・個人の参加が得られた。

この間行った活動は、ほぼ 2 か月に 1 回（2014 年度は 7 回）、①ラムネット J の水田部会、②農水省・環境省・国交省との水田円卓会議準備会を実施して、政府との情報交換と部会としての活動について話し合い、生物多様性地域戦略策定についても委員として関わった（登米市及び宮城県）。

活動の成果として、③ニュースレターを 2 回発行し、また、④CBD/COP12 においては、田んぼ 10 年計画行動計画（RiceBED プロジェクト）の英語版概要版を配布・展示、タペストリーのブース展示及び 3 つのイベントにおいてプロジェクトに関する発表を行なった。また、⑤ウガンダで始まった水田開発事業に水田決議を組み込む構想を持った JICA と水田部会合同の勉強会（1/14）を持ち、また、それがきっかけで、⑥部会長がコスタリカの世界湿地の日記念行事に参加（2/25）、中南米が大きな米消費国であることを確認した。また、年度末には、⑦にじゅうまるプロジェクト関東ミーティングでは農林業に関する小グループのファシリテーターを受け持ち、⑧田んぼ 10 年プロジェクトを登米市の生物多様性戦略に盛り込むことができた。

これら 2014 年度の活動を通して、参加団体の増加、国内への働きかけの点では陰りが見られるが、にじゅうまるプロジェクト、国連生物多様性の 10 年国内委員会からの評価や、FAO の Web への円卓準備会合の紹介掲載の勧誘があり、活動が認められてきている。

(3) 普及・啓発事業

●湿地のグリーンウェイブ

このプロジェクトは、国連生物多様性の 10 年日本委員会の連携推進事業に認定されている。

2 月～3 月に湿地のグリーンウェイブ 2014 の参加イベントを募集した。4 月初めに、全国版イベント一覧チラシを作成し、主催団体に配布した。また、ラムネット J の HP 及び環境省他のグリーンウェイブ HP に参加全イベントを掲載した。

2014 年のイベント参加団体数は 57 団体（共催含む）で、イベント数は初めて 60 件を超えた。地方紙での報道数は増加傾向にあり、TV で報道される取り組みもあった。流域でいくつかの団体が集まり、それぞれのイベントを開催できるようになった地域もある。

●世界湿地の日

世界湿地の日の冊子翻訳：2014 年の世界湿地の日のテーマが農業であり、蕪栗沼の事例が掲載されていたこともあり、WIJ の下請けという形でラムネット J が翻訳を行い、普及した。

●普及啓発のための諸活動

エコプロダクツ展での展示：にじゅうまるプロジェクト「生物多様性ナレッジスクエア」に出展し、クイズラリーの実施などを通じて、学生を含む多数の人々に田んぼの生物多様性を理解してもらった。

大崎キッズフリマワークショップ：パタゴニア大崎店の依頼で子供向けのワークショップを開催した。参加者のぬり絵や絵などで、生き物でいっぱい大きな田んぼを作成した。

(4) 国際協力事業

●ラムサール COP12

2015 年 6 月のラムサール条約第 12 回締約国会議（ウルグアイ、プンタデルエステ）への参加にあたって、3 月に飛行機・宿泊を予約したため、その費用を 2014 年事業費として計上した。

●日韓湿地 NGO フォーラム

生物多様性の日記念行事を開催（東京・大阪、5/24～25）。CBD/COP12 付帯行事の実施や参加（地域住

民の日、日韓交流の夕、サイドイベント、4 大河川事業現場訪問他、韓国・ピョンチャン、10/4～17)。第 20 回日韓国際環境賞を受賞（表彰式：韓国・ソウル、10/30）。第 10 回日韓湿地 NGO フォーラムの開催（韓国・ソチョン郡 2/28～3/1）。

●国際協力／国際湿地ネットワーク（WWN）他

WWN 委員会スカイプ会議（全 11 回）に参加し、NGO によるラムサール条約アンケート分析、ラムサール条約参加準備、WWT の母団体撤退とともに、代表空席となることに対する論議などを行った。

●生物多様性条約（CBD）COP12

名古屋で開催された COP10 以来、湿地の生物多様性保全に向けた活動の一環として、生物多様性条約にも積極的に関わってきた。韓国・ピョンチャンで開催された COP12 に向け、自然保護助成基金から特別助成を受けて参加することができた。

活動の目的は、①市民の計画的な生物多様性保全への取りこみを進めるため「田んぼ 10 年計画」を紹介すること。②開発による湿地破壊の圧力を食い止めるため、湿地の生物多様性の保全と賢明な利用の実現について考えること、そして③主催国韓国の市民の運動と協力し、環境条約の中で地域住民の貢献について締約国に伝えることであった。

これらの目的実現のため、「アジアの湿地の現状」と「軍事基地による島嶼の生物多様性の危機」に関するサイドイベントを主催し、韓国の CBD 市民ネットワーク・CBD 事務局の地域住民と先住民担当者との共催で、地域における生物多様性保全の大切さについての週末イベントを共催した。また、田んぼ 10 年プロジェクトについては、週末イベントと普及啓発の日の行事の中で、愛知目標実現のための IUCN 日本委員会のにじゅうまるプロジェクトにおける田んぼに関する具体的活動の事例として発表を行った。

これらの活動を通して、田んぼ 10 年プロジェクトは、にじゅうまるプロジェクトに参加する多くの取り組みの中でも先進的な事例としての評価を受けた。また、日韓の湿地 NGO のこれまでの協力が、今回湿地の枠を越えた韓国の多くの NGO の条約会議への積極的な参加に結びついた

(5) エコトーン事業

2014 年度のエコトーン・プロジェクトでは、各地の湿地保全活動に対して資金援助等の支援活動を行うとともに、湿地を訪ねて作業活動を行うサイトビジットを行った。

(6) ネットワーク推進事業

●ニュースレター

2014 年度はニュースレターを 4 回発行した（16～19 号）。主な記事としては、「熊本県のダム問題の光と影」、「国に確定判決を守らせ、一日も早い諫早湾の開門を実現するために」、「CBD/COP12 でのラムサール条約 J の活動報告」、「中池見湿地の新幹線問題をめぐる最近の動き」など。毎回、1500～2000 部程度印刷し、会員や関連団体に郵送したほか、会員団体の機関誌への同封や各種イベントでの配布も行った。

2014年度 収支決算

(2014年4月1日～2015年3月31日)

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

貸借対照表

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本
全事業所

(単位：円)
2015年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	26,546
現 金	9,285	流動負債 計	26,546
普通 預金	2,108,754	負債の部合計	26,546
現金・預金 計	2,118,039	正 味 財 産 の 部	
(売上債権)		【正味財産】	
未 収 金	194,400	前期繰越正味財産額	6,388,524
売上債権 計	194,400	当期正味財産増減額	△ 4,102,631
流動資産合計	2,312,439	正味財産 計	2,285,893
		正味財産の部合計	2,285,893
資産の部合計	2,312,439	負債・正味財産の部合計	2,312,439

財 産 目 録

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本
全事業所

(単位：円)
2015年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現 金		9,285	
普通 預金		2,108,754	
常陽銀行		(79)	
郵便口座		(347,465)	
みずほ銀行		(85,195)	
三菱東京UFJ銀行		(1,075,627)	
りそな銀行		(600,388)	
現金・預金 計		2,118,039	

(売上債権)

未 収 金		194,400	
小山市		(194,400)	
売上債権 計		194,400	

			2,312,439
--	--	--	-----------

			2,312,439
--	--	--	-----------

《負債の部》

【流動負債】

未 払 金		26,546	
クロネコヤマト		(26,546)	
流動負債 計		26,546	
負債の部 合計			26,546

			2,285,893
--	--	--	-----------

活 動 計 算 書

(単位：円)

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

自 2014年 4月 1日 至 2015年 3月31日

	特定非営利活動 に係る事業	その他の事業	合計
【経常収益】			
【受取会費】			
一般正会員	335,000		335,000
団体正会員	90,000		90,000
一般賛助会員	119,000		119,000
団体賛助会員	10,000		10,000
特別正会員	100,000		100,000
特別賛助会員	60,000		60,000
企業賛助会員	100,000		100,000
【受取寄付金】			
受取寄付金	1,543,853		1,543,853
【受取助成金等】			
受取補助金	1,500,000		1,500,000
【事業収益】			
受託事業収益	194,400		194,400
【その他収益】			
受取 利息	500		500
雑 収 益	1,908,891		1,908,891
経常収益 計	5,961,644	0	5,961,644
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
人件費計	0	0	0
(その他経費)			
事業 支出	2,400,000		2,400,000
業務委託費	533,000		533,000
諸 謝 金	20,000		20,000
印刷製本費(事業)	868,555		868,555
会 議 費(事業)	22,743		22,743
旅費交通費(事業)	2,537,973		2,537,973
通信運搬費(事業)	139,668		139,668
消耗品 費(事業)	6,231		6,231
賃 借 料(事業)	231,187		231,187
保 険 料(事業)	14,100		14,100
支払手数料(事業)	27,250		27,250
雑 費(事業)	8,533		8,533
分担協賛金	420,000		420,000
その他経費計	7,229,240	0	7,229,240
事業費 計	7,229,240	0	7,229,240

活 動 計 算 書

(単位：円)

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

自 2014年 4月 1日 至 2015年 3月31日

【管理費】			
(人件費)			
人件費計	0	0	0
(その他経費)			
事務委託費	1,709,805		1,709,805
印刷製本費	10,800		10,800
旅費交通費	115,390		115,390
通信運搬費	215,918		215,918
消耗品 費	5,942		5,942
地代 家賃	540,000		540,000
賃 借 料	151,721		151,721
諸 会 費	59,799		59,799
租税 公課	600		600
支払手数料	25,060		25,060
その他経費計	2,835,035	0	2,835,035
管理費 計	2,835,035	0	2,835,035
経常費用 計	10,064,275	0	10,064,275
当期経常増減額	△ 4,102,631	0	△ 4,102,631
【経常外収益】			
経常外収益 計	0	0	0
【経常外費用】			
経常外費用 計	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	△ 4,102,631		△ 4,102,631
経理区分振替額	0	0	0
当期正味財産増減額	△ 4,102,631	0	△ 4,102,631
前期繰越正味財産額			6,388,524
次期繰越正味財産額			<u>2,285,893</u>

事業費の内訳（別紙）

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

2015年 3月31日 現在

(1/2)

(単位：円)

科目	特定非営利活動に係る事業					
	ラムサールCOP	非営利・その他	世界湿地の日	エコトーン	日韓フォーラム	ニュースレター
事業 支出				2,400,000		
業務委託費			150,000	50,000		
諸 謝 金						
印刷製本費(事業)						83,000
会 議 費(事業)						
旅費交通費(事業)	391,013			401,848	15,388	
通信運搬費(事業)				872		49,874
消耗品 費(事業)				1,762		
賃 借 料(事業)						
保 険 料(事業)				14,100		
支払手数料(事業)				200		
雑 費(事業)				8,320		
分担協賛金		30,000				
合計	391,013	30,000	150,000	2,877,102	15,388	132,874

(2/2)

科目	特定非営利活動に係る事業					合計
	地球環境基金 (CCBC)	CBD COP12	湿地のGW	田んぼ10	ヘラシギ	
事業 支出						2,400,000
業務委託費		190,000	120,000	15,000	8,000	533,000
諸 謝 金				20,000		20,000
印刷製本費(事業)		221,593	58,060	505,902		868,555
会 議 費(事業)		22,743				22,743
旅費交通費(事業)		977,809		87,848	664,067	2,537,973
通信運搬費(事業)	772	50,199	16,380	21,571		139,668
消耗品 費(事業)		200		4,269		6,231
賃 借 料(事業)		224,037		5,000	2,150	231,187
保 険 料(事業)						14,100
支払手数料(事業)	100	100	100	500	26,250	27,250
雑 費(事業)		105			108	8,533
分担協賛金		390,000				420,000
合計	872	2,076,786	194,540	660,090	700,575	7,229,240

(単位：円)

使途が指定された寄付金の内訳	
CBD COP12	165,000
田んぼ10年プロジェクト	100,000
シギ・チドリ類/ヘラシギ	548,927

2015年度 事業計画

(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

事業実施の方針

2015年度事業の方針は、以下のとおりである。

- (1) ラムサール条約湿地の増加およびすべての湿地の保全と賢明な利用を目指し、湿地に関する調査研究、情報収集、普及教育、地域グループとの連携、政府や自治体、議会等への働きかけ、政策提言、広報を行う。
- (2) ラムサール条約会議等に参加し、国外、特に韓国の湿地グループとの交流を進める。
- (3) 事務局体制の充実、会員の増加、スポンサー収入の増大など、事業実施の基盤の整備を行う。

上記により湿地の生物多様性の保全と持続可能な利用の推進に取り組む。

2015年度事業計画（プロジェクト別）

(1) 調査研究事業

●シギ・チドリ類／ヘラシギ

シギ・チドリ類WGの立ち上げ、シギ・チドリ類／ヘラシギサポートグループ立ち上げ会合、シギ・チドリ類国内支援グループ活動準備、ニュースレター等の広報活動を行う。

*予算：30万円

(2) 保全・再生事業

●沖縄の生物多様性保全

辺野古・高江の環境保全と基地建設反対に関する声明や要請の発表、署名、院内集会、国会包囲抗議行動、現地座り込み、裁判闘争など、地元団体や各地の関係団体との共同、支援の活動を実施する。泡瀬干潟の保全再生活動、その他の湿地保全活動の支援を行う。

*予算：25万円

●田んぼの10年プロジェクト

ラムサールCOP12において、WWN、韓国湿地NGOネットワーク、JICA、FAOなどと連携してサイドイベントその他を実施し、報告会を開催する。

田んぼ10年プロジェクトの推進のため、九州と関西で交流会を開催するなど、プロジェクトの周知、参加者数の増加に向けた取り組みを行う。また、ニュースレターを発行し、参加団体間の情報を共有する。水田部会、水田決議円卓準備会合を開催し、田んぼの生物多様性向上のための活動を推進し、そのための資料等を作成する。生物多様性地域戦略を背景とした田んぼ10年プロジェクトの実施の働きかけを行う。田んぼ10年計画の目標達成度の検証を行う。

ラムサール条約登録湿地を軸とする、アジア・アフリカ・中南米の水田ネットワーク立ち上げを意識した情報交換を開始する。

マガンと共生する農業の取り組み向上のために、北海道美唄市において、マガンの小麦農業への実際の被害を調査する。そのためのヒアリングを実施する。

* 予算：400 万円

(3) 普及・啓発事業

●湿地のグリーンウェイブ

湿地のグリーンウェイブ 2015 はすでに開催中で、特にイベント終了後の報告を募集中。湿地のグリーンウェイブの進め方等は例年通り。特に 2016 年が国連生物多様性の 10 年の中間年にあたるため、「湿地のグリーンウェイブのこれまでとこれから」を話し合う機会を持つ。ラムネット J の催し等と同時開催の形にすることを提案。

* 予算：20 万円

●世界湿地の日

10 月に条約 HP で発表される、2016 年の世界湿地の日のパンフレットの翻訳を行う。

* 予算：25 万円

●普及啓発のための諸活動

エコプロダクツ展では、にじゅうまるプロジェクト関係での出展を予定。子ども向けのワークショップなどは、要請に応じて実施する。

* 予算：2 万円

(4) 国際協力事業

●ラムサール COP12

ウルグアイのプンタデルエステでのラムサール条約第 12 回締約国会議にラムネット J メンバーを派遣し、本会議やサイドイベントなどの傍聴など情報収集を行う。環境省などと共同で水田をテーマにしたサイドイベントを実施する。日本の条約湿地の登録を 50 から 100 箇所を増やすアピールを、チラシやポスターで行う。展示ブースではそのポスターの他に、田んぼ 10 年や湿地のグリーンウェイブ、日本の公共事業による湿地環境の破壊の問題などについて展示を行う。また、WWN の活動として、NGO によるプレ COP 会議や毎朝の会議、NGO ステートメントの策定、今後の相談などを行う。

* 予算：100 万円

●日韓 NGO 湿地フォーラム

ウルグアイでのラムサール COP12 期間に日韓 NGO による打ち合わせを行う。日韓いずれかにおいて、コアメンバーによる打ち合わせを行う。

* 予算：(12 万円：ラムサール COP12 の予算に含む)

●国際協力／国際湿地ネットワーク (WWN) 他

WWT の母団体撤退とともに、代表空席 (2015 年 5 月以降)。WWN 委員会スカイプ会議に参加する。ラムサール COP12 関連は「ラムサール COP12」の項の通り。

(5) エコトーン事業

2015 年度のエコトーン・プロジェクトに関する事業は、一般社団法人環境パートナーシップ会議と共同実施することとして事務局機能を分担し、支援先の選定、支援先との連絡・調整、サイトビジットの企画・運営を行う。

* 予算：235 万円

(6) ネットワーク推進事業

●ニュースレター

昨年度と同様に、2015年度も4回程度（7月、10月、1月、3月頃）発行する。

*予算：20万円

2015年度 活動予算書

2015年4月1日～2016年3月31日

NPO法人ラムサール・ネットワーク日本

I 経常収益

科目	2015年予算 (A)	2014年予算 (B)	比較 (A-B)	2014年度決算	備考
受取会費	900,000	1,000,000	△ 100,000	814,000	
受取寄付金	300,000	6,000,000	△ 5,700,000	1,543,853	
受取助成金等	5,000,000	5,470,000	△ 470,000	1,500,000	企業助成金30万円 地球環境基金470万円
事業収益	5,400,000	300,000	5,100,000	194,400	エコトーン500万円、世界湿地の日25万円、他
その他収益	100,000	200,000	△ 100,000	1,909,391	
経常収益計 (a)	11,700,000	12,970,000		5,961,644	

II 経常費用

1 事業費					
(1) 調査研究事業	300,000	2,600,000	△ 2,300,000	700,575	
(2) 保全・再生事業	4,250,000	6,850,000	△ 2,600,000	660,090	
(3) 普及・啓発事業	470,000	300,000	170,000	344,540	
(4) 国際協力事業	1,000,000	580,000	420,000	2,484,059	
(5) エコトーン事業	2,350,000	0	2,350,000	2,877,102	
(6) ネットワーク推進事業	200,000	250,000	△ 50,000	132,874	
その他		0		30,000	
事業費計	8,570,000	10,580,000	△ 2,010,000	7,229,240	
2 管理費					
(人件費)				0	
(その他経費)					
事務委託費	1,800,000	1,600,000	200,000	1,709,805	ジーズグリーンラボ (後藤)
印刷製本費	20,000	0	20,000	10,800	
会議費	30,000	30,000	0	0	
旅費交通費	200,000	250,000	△ 50,000	115,390	
通信運搬費	200,000	150,000	50,000	215,918	
消耗品費	50,000	50,000	0	5,942	
地代家賃	540,000	540,000	0	540,000	事務所光熱費含
賃借料	150,000	50,000	100,000	151,721	事務所コピー使用料含
新聞図書費	10,000	10,000	0	0	
諸会費	60,000	60,000	0	59,799	
租税公課	5,000	5,000	0	600	
支払手数料	30,000	20,000	10,000	25,060	
什器備品費	0	0	0	0	
事務所費	0	0	0	0	
管理費計	3,095,000	2,765,000	330,000	2,835,035	
経常費用合計 (b)	11,665,000	13,345,000		10,064,275	

当期増減額 (a-b)	35,000	△ 375,000		△ 4,102,631	
前期繰越増減額	2,285,893	1,877,526		6,388,524	
次期繰越増減額	2,320,893			2,285,893	

事業費の内訳

事業名	総額	事業名	金額	見合いの収入
(1) 調査研究事業	300,000	シギ・チドリ類／ヘラシギ	300,000	
(2) 保全・再生事業	4,250,000	沖縄の生物多様性保全	250,000	
		田んぼ10年プロジェクト	4,000,000	企業助成金30万円 地球環境基金370万円
(3) 普及・啓発事業	470,000	湿地のグリーンウェイブ	200,000	
		世界湿地の日	250,000	世界湿地の日25万円
		普及啓発のための諸活動	20,000	
(4) 国際協力事業	1,000,000	ラムサールCOP12		
		日韓NGO湿地フォーラム	1,000,000	地球環境基金100万円
		国際協力／WWN他	0	
(5) エコトーン事業	2,350,000	エコトーン・サイトビジット	2,350,000	エコトーン・サイトビジット運営費235万円
(6) ネットワーク推進事業	200,000	ニュースレター	200,000	

議案5 理事定数に関する定款の変更について

定款第13条(1)の理事定数について次のとおり変更する。

定款第13条 この法人に、次の役員を置く。

現 状 (1) 理事 3人以上 20人以内

変更案 (1) 理事 3人以上 30人以内

提案理由

ラムネットJの定款上、理事や監事でない会員は、組織運営の意思決定に関わる機会が総会しかないところ、総会は委任状提出がほとんどで出席者も少なく、実質的な議論は、年に2回程度開催される理事会、役員と事務局員で構成して月1回程度開催する運営会議やそのためのスタッフMLと呼ぶメーリングリストの中で行われており、理事・監事にならない限り、組織運営の当事者としての意識は持てないのが現状である。

今後、ラムネットJの活動を強化するためには、今まで理事会の外にいた各地の有為な人材を若手も含め積極的に理事に登用し、理事会や運営会議での議論は勿論、スタッフMLで日常的に組織運営の意思決定に関わる情報に触れてもらい、ラムネットJの組織運営の当事者になっていただくことが必須である。

そのような観点から、現在、理事の定員は20名で20名が選任されているが、今回の総会で定員を20名から30名にする定款変更を行うと同時に、新たに10名の理事を選任すべく、定款変更を提案する次第である。

2015年6月22日

特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本

代表理事 柏木 實 様

代表理事 呉地 正行 様

代表理事 花輪 伸一 様

代表理事 堀 良一 様

監査報告書

当法人の2014年度（2014年4月1日から2015年3月31日）の理事の業務執行の状況および、この法人の財産の状況について監査を行いました理事の業務の執行に関しては、事業報告書および理事会に出席して、都度、業務内容を確認し、財産の状況については、財産目録、貸借対照表、活動計算書および通帳等を開覧、照合して確認しました。

監査の結果、当法人の業務は、法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理も適正なものであることを認めます。

特定非営利活動法人ラムサール・ネットワーク日本

幹事 大村 茂 

幹事 小沢 秀造 